

平成27年度全国水生生物調査結果

1. 参加人数及び参加団体数

平成27年度の参加人数は58,143人であった。

うち、一級河川¹は16,596人であり、その他の河川²は41,547人であった。また、参加団体数は1,496団体で、うち一級河川は448団体であった。

参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで各種団体、中学校の順番であった。

都道府県別の参加者数では岐阜県が最も多く、次いで岩手県、愛知県の前で終わった。

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	うち一級河川
1	岐阜	7,805	195
2	岩手	4,364	261
3	愛知	3,823	678
4	福島	3,114	775
5	北海道	3,046	2,814

1一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）

2一級河川都道府県管理区間及び二級河川等 1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

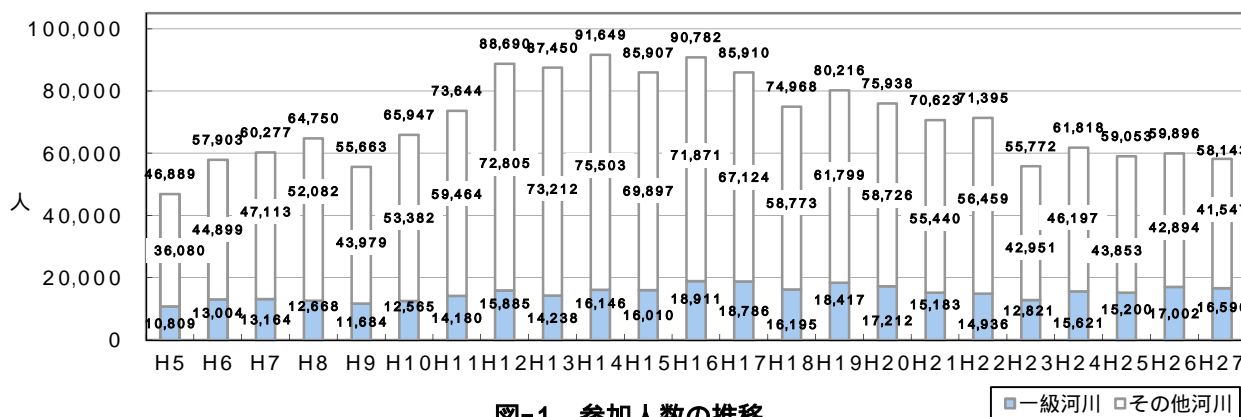


図-1 参加人数の推移

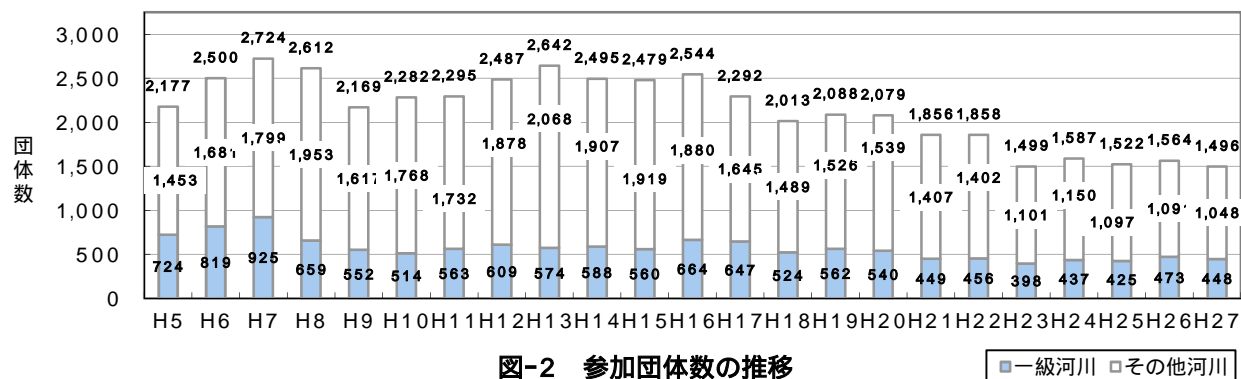


図-2 参加団体数の推移

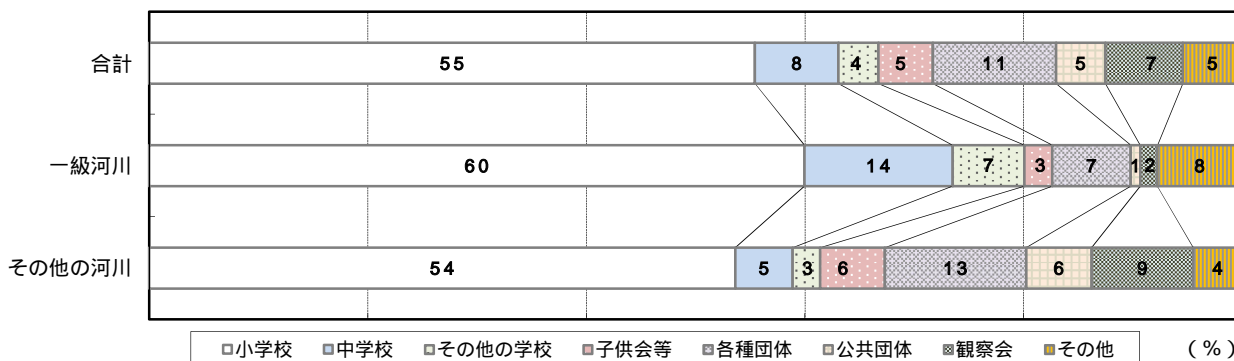


図-3 参加人数の団体種類別構成比

四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

2. 調査地点数

調査地点数は2,227地点であった。

内訳は、一級河川は502地点、その他の河川は1,725地点であった。

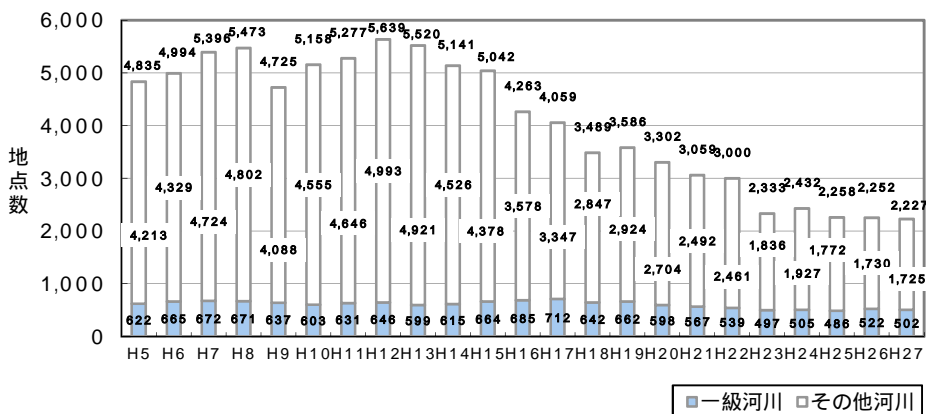
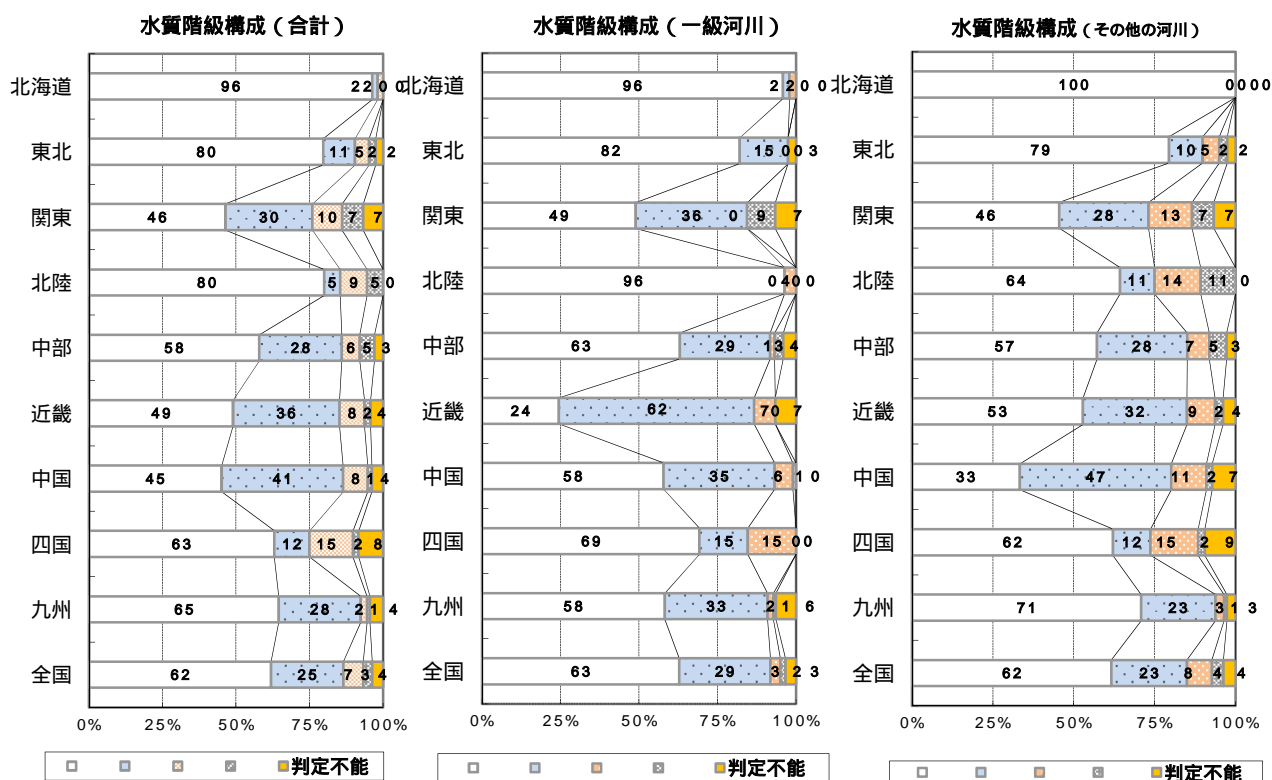


図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成 (地域別の水質の状況)

平成27年度は、全国で水質階級 (きれいな水) と判定された地点が62%、(ややきれいな水) が25%、(きたない水) が7%、(とてもきたない水) が3%であった。

(きれいな水)の割合でみると関東、近畿、中国地方は50%以下であったが、北海道は90%以上の高い値であった。

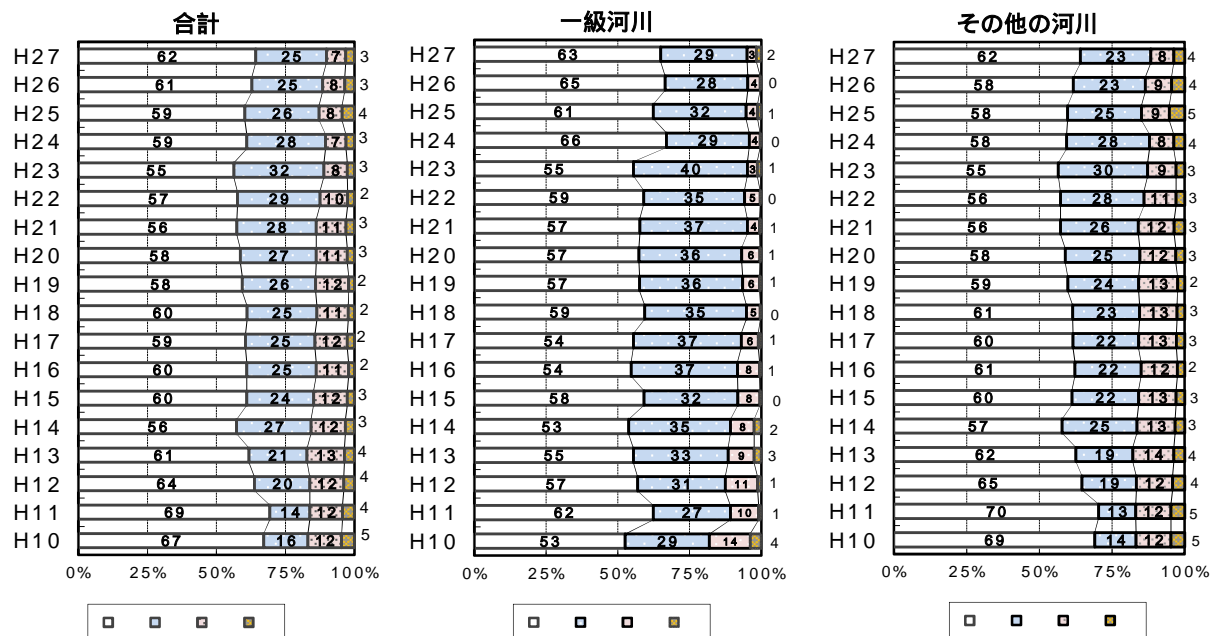


判定不能の数値ラベルは図中表示していない。
四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。
平成11年度をピークに、(きれいな水)と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、平成14年度以降は55~60%前後でほぼ横ばいとなっている。

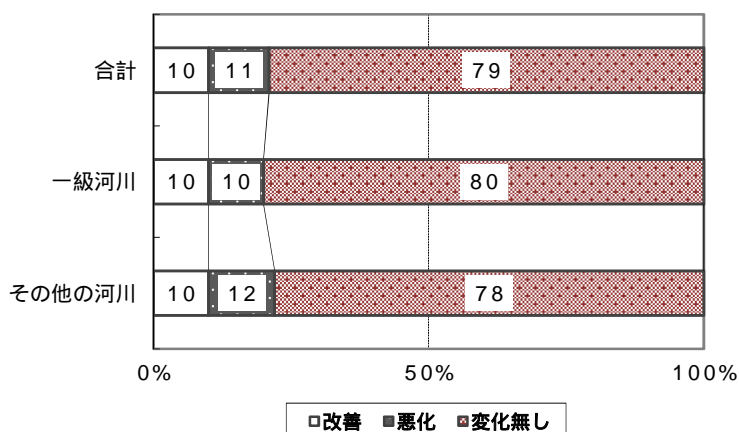


1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前との厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度(H26)との比較

前年度と同じ地点で調査された958地点について比較すると、10%の地点が改善、11%の地点が悪化、79%の地点が同じ水質階級であった。



四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較